



## 草原再生を支える社会システムの分析

- 『我が国の草原をとりまく現状と課題』
- ヒアリング調査・類型化を通じた草原再生を実現している地区の特徴抽出
- 里山再生の実現に向けて提案  
……東祖谷山の教訓を踏まえて……

『我が国の草原をとりまく現状と課題』



### 草原の供給サービスに価値が見出されていた……

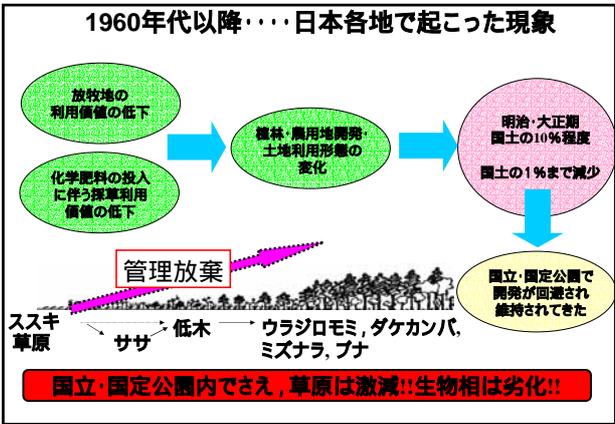
肥料  
放牧の場  
茅葺き屋根の材料  
山菜の採取, 狩猟の場

適切に管理された草原は文化的サービスも提供していた

雄大な草原景観

キキョウ オミナエシ  
生物多様性保全の場

草原の管理作業を通じた地域固有の文化伝承



**草原生態系の供給サービスに価値が見出されない**

~~肥料  
放牧の場  
茅葺き屋根の材料  
山菜の採取、狩猟の場~~



**管理放棄 文化サービスは提供されない**

~~雄大な草原景観~~



~~キキョウ オミナエシ  
生物多様性保全の場~~



~~草原の管理作業を通じた地域固有の文化伝承~~

**草原再生の実現に不可欠な検討**

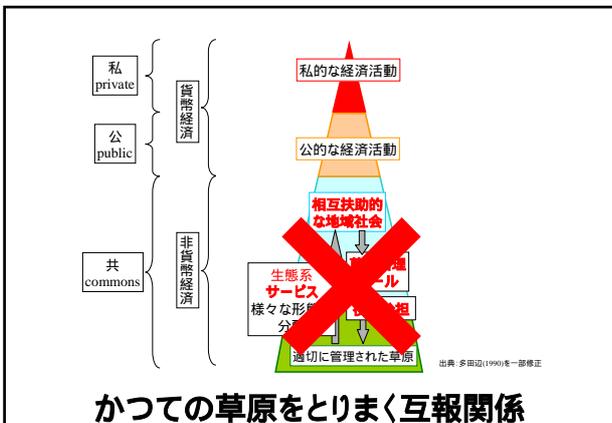
**生態学的なリスク評価・再生技術体系の確立**

- 草原の管理放棄に伴う草原の消失
- 草原の管理放棄に伴う生物多様性の劣化

**草原再生を支える社会システムの再構築**

- 草原再生を支える社会システムの分析

草原再生を実現している  
10地区の特徴抽出  
～ヒアリング調査・類型化を通じて～



**調査方法**

ヒアリング内容

1. 草原は地域社会においてどのように認識されてきたか？
2. 草原の**管理作業**を誰が担ってきたか？
3. どういった**管理形態**で行われているか？
4. **管理作業**を担っている関係者は、  
草原再生に**どういった価値**を見出しているのか？

ヒアリング対象

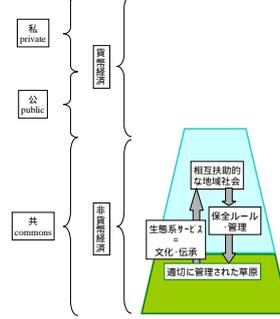
- ・管理作業を担っている関係者・関連する行政担当者



## 4グループに類型化できた

1. 伝統的共的生態系サービス維持タイプ
2. 自立経済・経営タイプ
3. 公的支援依存タイプ
4. 新規共的生態系サービス調整タイプ

### 伝統的共的生態系サービス維持タイプ



草原の認識	共的・公的コモンズとして認識
草原管理の担い手	地域コミュニティ
草原の管理形態	地域コミュニティによる共同管理
見出している価値	非経済利益 経済利益 私的利益 公的利益

課題: 過疎化・高齢化に伴う後継者不足

霧山高原(岡山県)・深入山(広島県)

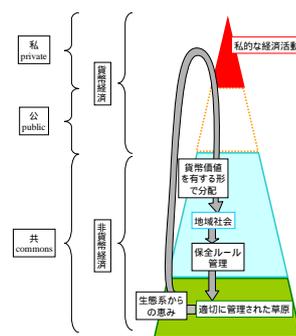


霧山高原: 1960年代前半



霧山高原: 2005年1月

### 自立経済・経営タイプ



草原の認識	共的・公的コモンズとして認識
草原管理の担い手	地域コミュニティ
草原の管理形態	地域コミュニティによる共同管理
見出している価値	非経済利益 経済利益 私的利益 公的利益

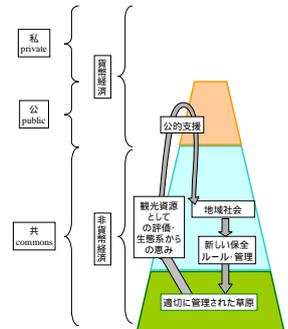
課題: 自立経済・経営の持続性の確保

曾爾高原(奈良県)・岩湧山(大阪府)



曾爾高原

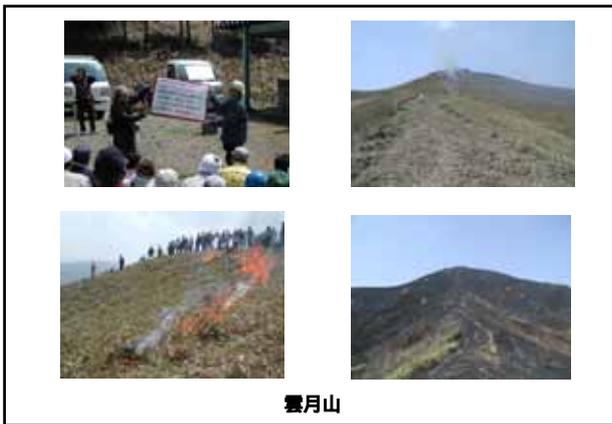
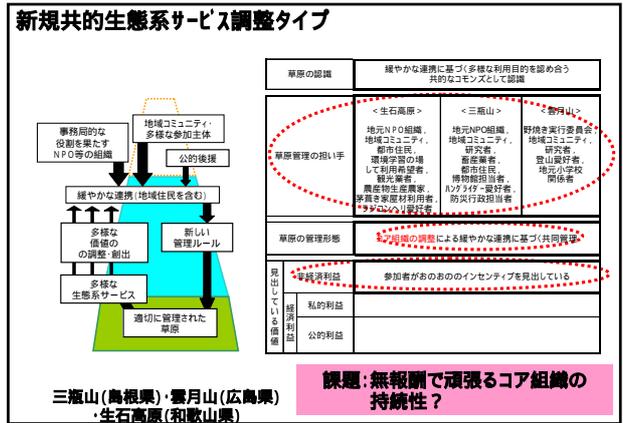
### 公的支援依存タイプ



草原の認識	観光資源・公的・公的コモンズとして認識
草原管理の担い手	地域コミュニティ
草原の管理形態	公的支援に基づく共同管理
見出している価値	非経済利益 私的利益 公的利益

課題: 過疎化・高齢化に伴う後継者不足・行政の負担

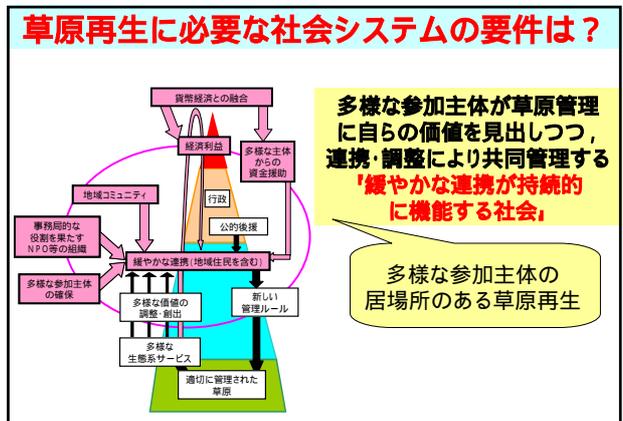
秋吉台(山口県)・砥輪高原(兵庫県)・塩塚高原(徳島県)



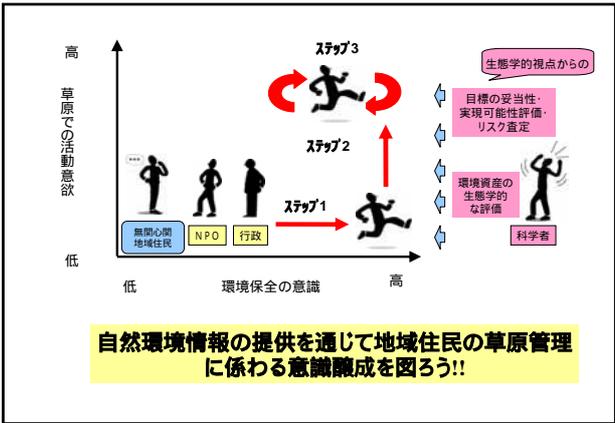
## 草原再生に必要な社会システムに関するまとめ

	1 共的生態系サービス調整タイプ		2 公的支援型調整タイプ		4 新規共的生態系サービス調整タイプ		
	三瓶山(和歌山県)	雲月山(広島県)	三瓶山(和歌山県)	三瓶山(和歌山県)	生石高原(和歌山県)	三瓶山(和歌山県)	雲月山(広島県)
草原に関する認識	伝統的な共的なモンスとして認識		観光資源 公的支援として認識		緩やかな連携に基づき(多様な利用目的を認め合う) 共的なモンスとして認識		
草原管理の担い手	地域コミュニティ		地域コミュニティ		<生石高原> 地元NPO組織、 地域コミュニティ、 都市住民、 遺跡学芸の増して利用促進者、 観光業者、 農業物生産農家、 茅葺き家屋材利用者、 マジコンハウ開発者	<三瓶山> 地元NPO組織、 地域コミュニティ、 研究家、 産産業者、 都市住民、 登山愛好者、 地元小学校関係者	<雲月山> 野焼き実行委員会、 地域コミュニティ、 研究家、 登山愛好者、 地元小学校関係者
草原の管理形態	地域コミュニティによる共同管理		公的支援に基づく共同管理		コア組織の調整による緩やかな連携に基づく(共同管理)		
見出している価値	単経済利益	集落行事として見出している					参加者がおのののインセンティブを見出している
	私的利益	(茅葺き材料)					
	公的利益		(作業委託費)				

**課題 後継者不足 安定経営？ 後継者不足 財政支援？ 後継者不足 コア組織の持続性？**



里地・里山再生の実現に向けて提案  
 ……東祖谷山の教訓を踏まえて……



これまでの主な取り組み  
 「落合峠 = 環境資産と認識」  
 「落合峠を生かした地域づくりに向けて課題の認識」

1. ヒアリング調査を通じた情報発信
2. 自然観察会の開催
3. 平家祭での調査成果発表
4. 広報での通知 研究成果発表会の開催
5. 地元中学校総合学習での研究成果の発表

'草原復元しよう!!'の反応はなし

